

ノウサギの死亡に対する対策について

6月27日から7月5日までの間に、キュウシュウノウサギ2頭、トウホクノウサギ4頭が立て続けに死亡しました。死亡に至る様々な可能性を考え、原因の追及と対策を行っていますが、未だその特定には至っていません。対策として、外敵からノウサギを守るために全個体を収容、感染症の対策として駆虫や消毒を強化、中毒の可能性を考え給餌した草の安全性確認などを行っています。これまでの経過と対策、解剖結果などをご報告します。

【死亡の経過】

■ 6月27日

キュウシュウノウサギ (No.136♀) …朝、放飼場で死亡しているのを確認。

キュウシュウノウサギ (No.134♂) …夕方、放飼場で脱力し呼吸状態が悪化。動物病院で治療開始。

■ 6月28日

キュウシュウノウサギ (No.134♂) …前日の治療個体。朝、死亡確認。

■ 6月29日

トウホクノウサギ (No.248♂) …食欲低下。左後肢を痛めている様子がみられる。

■ 6月30日

トウホクノウサギ (No.245♂) …朝、放飼場で死亡しているのを確認。

トウホクノウサギ (No.250♀) …食欲低下。放飼場から室内に収容し経過観察。夜に死亡確認。

トウホクノウサギ (No.248♂) …前日に左後肢を痛めた個体。左後肢骨折が判明し、外固定の治療開始。

■ 7月4日

トウホクノウサギ (No.248♂) …左後肢の治療個体。朝、死亡確認。

■ 7月5日

トウホクノウサギ (No.240♀) …朝、衰弱のため動物病院で治療を開始。夕方、死亡確認。

【症状や解剖所見から推測される死因】

■ キュウシュウノウサギNo.136

死亡原因：呼吸不全

…気管や肺の状態から、激しい興奮状態・呼吸状態であったと推測される。肺出血による呼吸不全で死亡

■ キュウシュウノウサギNo.134

死亡原因：呼吸不全

…皮下出血があることや、気管や肺の状況から、激しい興奮状態・呼吸状態であったと推測される。現時点では、肺出血による呼吸不全で死亡した疑いが強いが、死亡前に神経症状も見られたことから、さらな

る原因精査が必要。

■ トウホクノウサギNo.245

死亡原因：呼吸不全

…気管や肺の状態から、激しい興奮状態・呼吸状態であったと推測される。肺出血による呼吸不全で死亡

■ トウホクノウサギNo.25

死亡原因：呼吸不全

…気管や肺の状態から、激しい興奮状態・呼吸状態であったと推測される。肺出血による呼吸不全で死亡

■ トウホクノウサギNo.248

死亡原因：心不全

…骨折や、骨折の治療に起因するストレスから、循環不全を起こして死亡したと推測。

■ トウホクノウサギNo.240

死亡原因：心不全

…脳の所見を含め、心不全の兆候以外に大きな異常はないが、死亡前に神経症状が見られたことから、さらなる原因精査が必要。

解剖（目視による異常所見の検出）のみではわからないこともあるため、より詳細な各臓器の病理組織検査（臓器の細胞を顕微鏡で見る検査）を行います。血液が採取できた個体に関しては、血液検査や感染症の検査を外部検査機関に依頼しています。

【考えられる要因と対策】

① 園内に生息する野生動物の影響

ノウサギは非常に繊細な動物で、外敵となる野生動物の接近や気配は、パニックを起こす原因になります。野生動物の気配や侵入を防ぐため、放飼場の網を二重にする・網にトタンを張る・電柵の設置などの対策を行ってきました。また、放飼場内には隠れ場を多く設置し、ノウサギが安心できるように環境を改善してきました。

しかし、死亡した個体を解剖した結果、肺出血などが見られたことから、ノウサギがなんらかの原因で興奮し、長時間走り回った可能性が考えられたため、外敵から守るため全個体を室内に収容しました。また、外敵の接近や侵入を確認するため、周辺に監視カメラを設置しています。さらに、ノウサギの外敵となっている特定の個体を遠ざけるために、現在捕獲の準備をしています（捕獲許可申請中）。今後さらに隠れ場を増やし、夜間は巣箱を設置するなどの再発防止策を検討しています。

② 感染症などの病気

解剖の結果、死亡した全 6 頭に感染症を疑う所見はみられず、その可能性は低いと考えています。しかし、立て続けに 6 頭が死亡している状況から、感染症の疑いも否定しきれないため、日常の予防対策の強化に加え、次亜塩素酸ナトリウムによる獣舎の消毒を実施することとしました。

また 7 月 1 日に、死亡個体とは別の 2 頭が軟便を呈したため検査したところ、コクシジウムなどの寄生虫が検出されたため、全頭に駆虫薬を投与し、7 月 5 日にコクシジウム駆除のため放飼場の消毒を行いました。

③ 中毒

いつもの食餌に加えて青草を与えることがあります。今回、その青草が有害なものではなかったことを確認し、中毒の可能性は低いと考えています。しかし、ノウサギにとって有害になる植物もあるため、来園者の皆様におかれましても、動物たちに無断で植物を与えませんよう、引き続きご協力お願いいたします。

【今後の対応について】

様々な検査結果をもとに、岩手大学などの外部の専門家にもセカンドオピニオンを求め、客観的な視点からも死因や、今回の死亡を招いた要因を検証していく予定です。より詳細な検査結果が出るまでには時間かかりますが、これらの検証内容や検査結果は、改めてみなさまにお知らせしていく予定です。

皆様がノウサギたちを心配してくださっているにも関わらず、詳細な検査結果、現状で推測できる死亡原因、対策などの情報発信が不足しており、大変申し訳ありませんでした。今回、ノウサギが立て続けに死亡したことに関して、職員一同も心を痛めています。皆様にはまた元気なノウサギの姿をご覧いただけるよう、引き続き、原因精査と再発防止に努めて参ります。

2020 年 7 月 7 日

盛岡市動物公園 ZOOMO

園長 辻本恒徳